

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	えひめだいがくふぞくこうとうがっこう				②所在都道府県	愛媛	
27～31	①学校名	愛媛大学附属高等学校						
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模		
	1年	2年	3年	4年	計	学科名：総合学科 354名		
総合学科	120	118	116		354			
⑥研究開発構想名	伊豫の学びから世界の学びへ ～ グローカルマインドを持ったグローバル人材の育成 ～							
⑦研究開発の概要	<ul style="list-style-type: none"> ○グローバル人材の育成に資する課題研究を中心としたカリキュラムの開発・実践 ○大学や企業、海外の協定校等と連携したカリキュラムの開発・実践 ○地域の課題と世界の課題との繋がりを理解し、生徒自らが設定した課題に失敗を恐れずチャレンジする精神の育成を図るカリキュラムの開発・実践 ○本取組を広く公開し、グローバルな視点で社会課題を解決することにより地域社会の発展を支える人材育成の拠点校としての役割遂行 ○全教職員が主体的に取り組む組織作り 							
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>本校の目指すグローバル人材とは、地域の課題と世界の課題を統合的に捉えるグローバルな視点を持ち、社会課題に対して失敗を恐れずに挑戦し続ける人材を指す。そうした人材は、論理的な思考力、コミュニケーション能力、課題追究能力を兼ね備えている必要がある。そこで、グローバル化を推進する愛媛大学や地域にあってグローバルな展開をしている企業などと連携し、新たな教育プログラムの開発・実践を行っていくことを目的とする。</p> <p>生徒に身に付けさせたい力は次の四つである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○課題を発見し立ち向かう力 ○多様な価値を理解し対話する力 ○論理的に思考し判断する力 ○知識や技能を適切に運用する力 						
		<p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>愛媛大学附属である本校では、愛媛大学の海外研修プログラムに強い関心を持つ生徒が多い。今年度に限ってもSGHアソシエイト校として、「韓国語・韓国文化研修」、「国際平和デー・サクラメント市派遣」、「KAKEHASHI Project」、「地球の歩き方海外ボランティア」など、多数の生徒が海外研修を行った。この他、ルーマニアのイオン・クレアンガ高校と国際交流協定を締結し、インターネットのテレビ電話を利用して交流した。また、生徒の学びの質を高めるために、1年次から論理的な思考力、コミュニケーション能力、課題追究能力の育成も図っている。</p> <p>しかし、海外への関心と基本的な学力との有機的な関連付けに課題が残っている。そこで、新たな教育プログラム実践によって、1年次からの地域の学びや海外研修の体験が、3年次に実施している「課題研究」と体系的な連関を持ち、グローバルな視点から「課題研究」を深化させる可能性が担保できると考える。さらに、多くの生徒を海外の研修や留学に参加させると共に、海外から留学生を受け入れることが可能になる。そして、多くの海外の人々と関わることにより生徒の好奇心を刺激し、論理的な思考能力やコミュニケーション能力をさらに磨きをかけることが可能になる。</p>						
		(3) 成果の普及						

		<ul style="list-style-type: none"> ○本校主催により「課題研究成果発表会全国大会」を開催 ○全国のSGH校と連携 ○本校のホームページ（英語版も含む）への掲載 ○マスメディアの活用
<p style="text-align: center;">⑧ -2 課題研究</p>		<p>(1) 課題研究内容 研究テーマは、グローバルな視点に立ち、主として社会課題に関わるものとし、各人で興味関心に応じた課題を自らが設定する。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価 グローバル人材を目指す新科目 1年次：「伊豫学」（2単位）、「地域の産業」（3単位） 2年次：「グローバル・スタディーズ」（2単位）、「異文化理解」（1単位） を開設し、各科目においてICTを活用したアクティブラーニング、PBLを積極的に取り入れ、生徒の自発的な学びを促進する。 3年次：「課題研究」では、愛媛大学の各学部教員から提示されたキーワード（例：＜法文学部総合政策学科＞日本の貧困、現代政治、法と裁判等）を参考に、グローバルな視点から一人一課題（例：「世界の子どもの貧困～教育～」，「国際社会における法と裁判～裁判員制度と陪審員制度～」等）を設定し、大学教員と本校教員の指導の下、関係機関等と連携して研究を進める。生徒の学習効果の検証評価については、研究発表会、レポートにより評価する。 本プログラムの評価については、有識者による外部評価委員会の意見書や、学校評議員、大学関係者、保護者によるアンケート調査を取り入れる。英語検定、日本語検定、プレゼンテーション力検定等による定量的な評価も参考にする。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 ○総合学科原則履修科目「産業社会と人間」非開設 ○学校設定教科「グローバル・エデュケーション」新設 1年次：「地域の産業」，「伊豫学」新設 2年次：「グローバル・スタディーズ」，「異文化理解」新設</p>
<p style="text-align: center;">⑧ -3 上記以外</p>		<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 3年次に「リベラル・アーツ」を開設し、高等学校の教育課程の枠にとらわれず、幅広く専門性の高い知識に触れることで、学びに対するモチベーションの向上を図る。 生徒の相互評価、大学教員の評価を受け、高校教員による総合評価を実施する。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 科目「リベラル・アーツ」新設</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備，教育課程課外の取組内容・実施方法 愛媛大学国際連携推進機構の支援を得て、いつでも世界と繋がることのできる「国際交流ルーム」を新設する。また、「SUIJI」（日本・インドネシアの農山漁村で展開する6大学協働サービスラーニング・プログラム）に積極的に関わり、国際的なサーバント・リーダーについての理解を深める。非常勤の国際交流アドバイザー導入により、円滑に海外との交流がおこなえる環境を整備する。</p>
<p style="text-align: center;">⑨ その他 特記事項</p>		<p>本校は、国立大学附属学校の使命を果たすため、主幹教諭を長とする研究部を中心とした教育研究体制を組織し、教育委員会を通して県下の高校に周知し、愛媛大学の協力を得て研究会を定期的に開催するなど、恒常的に教育研究活動を行っている。</p> <p>設立以来7年間にわたり高大連携による課題研究を実施しており、生徒の主体的な学びや進路選択に関する分析・評価を行うことにより、継続的に改善を図っている。その実績については、県下の中学校や高校からも注目され、高い関心を持たれている。</p> <p>なお、本校をモデルとする愛媛大学の高大接続のプロジェクトは、平成26年度の大学教育再生加速プログラムに採択されている。</p>